徳川光圀の思いを未来につなぐ樹木園

百樹園

百樹園は、四代目木村傳兵衛（百樹翁）が徳川光圀生誕３００年祭を記念するとともに、光圀が那珂川沿岸に植えた樹木見本林「百色山」の衰退を嘆いて再現した樹木園です。個人所有としては類のない大きなもので、植物学者の牧野富太郎博士にもご指導をいただき、昭和８年に完成しました。現在は水戸市の都市公園として開設されていますが、その歴史と魅力を紹介します。

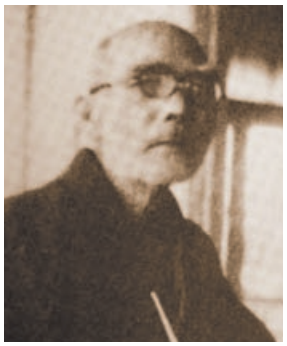
（一財）水戸市公園協会

百樹園ものがたり～徳川光圀と2人の木村傳兵衛

寛文年間（1661～1681）の頃、水戸徳川家第２代藩主　徳川光圀（1628～1700）が樹木見本林として、那珂川沿いのひたちなか市三反田に約100種類の樹木を植えたとされるのが「百色山（ひゃくいろやま）」です。いわゆる家庭の医学書『救民妙薬』を藩医に命じて発行した光圀だけあって、植樹した種類は木材や燃材以外に薬用のキハダ、カリン、クロモジ、ホオノキ、ナンテンなど、薬用にも食用にも利用できるビワ、ウメ、カキ、サンショウなど、染料に利用できるハンノキ、ヌルデ、油に利用するアブラギリ、蝋（ろう）を取るハゼノキ、洗剤に利用できるムクロジなど、私たちの生活に役立つ有用植物でした。

各種の樹種を集めて植栽し、広く一般人に見せて領内に広めるだけではなく、産業としても利用できる樹木の見本園にし、農民の副業としてウルシや和紙を作るコウゾの栽培、キリ、ヒノキ、スギの植林を奨励しました。しかし時が経つと見本林は衰退していきます。

（参考：花のサークル No.106『百樹園のモデルになった『百色山』について』）



百樹翁 第4代目木村傳兵衛
（昭和18年撮影）

開園式の様子

これを残念に思ったのが、水戸市で醤油醸造業「井傳」を経営していた第４代目・木村傳兵衛（後の百樹翁・本名は信惇。1869～1949）でした。昭和３年に、徳川光圀生誕300年祭を記念するとともに、「百色山」を再現するため祖先の土地0.7haに百樹園を建設する計画に着手しました。

水戸高等学校（旧制水高）教授・野原茂六氏に百樹園の設計を託し、斎藤卯内（旧制水高）、佐藤甲（旧制水中）、鶴町猷（はかる　旧制女子師範）３氏の協力を得て造園に着手します。

百樹翁自ら陣頭に立ち、多年の忠僕である関根勝次郎を督励し、寝食を忘れて東奔西走各地に出張し樹種を蒐集した結果、着手後三ヶ年で完成させました。

個人経営のものとして類をみない大がかりな樹木見本園は、水戸の名所であるばかりでなく、植物学会に貢献するところが多いので「百樹園」と命名されました。

昭和８（1933）年６月１日に小石川植物園の松崎直枝氏をはじめ、水戸博物学会の諸氏を招き、盛大な開園式が行われました。

第５代目木村傳兵衛に受け継がれて

次に百樹園を継いだ第５代目木村傳兵衛（1908～1972）は、第14代水戸市長で、誰よりも百樹園を愛した方でした。

～四季折々、樹木の姿のうつりかわりを眺める朝のひと時の静けさ。私の勇気を養ってくれるひと時でもある。またこの百樹園をのこしてくれたオヤジをつくづくありがたいと思うひと時でもある。

『百樹園記』より

第5代目　木村傳兵衛

昭和５８（1983）年に百樹園は水戸市が買収し、昭和６１年に水戸市の都市公園として開設され、市民に開放しています。

時は流れても光圀が目的にした有用樹木の見本園、そして百樹翁や牧野先生方が目指した「学習の場としての植物園」、そんな先人の思いを未来の百樹園に繋げていきたいものです。

（文責：水戸市植物公園園長　西川綾子）

牧野富太郎博士と百樹園

2023年4～９月に放送されたNHK連続テレビ小説「らんまん」は、日本の植物分類学の基礎を築いたと言われる牧野富太郎博士がモデルです。ほぼ独学で植物の知識を身につけ1500種類以上の植物を発見・命名し、百樹園では開園時に指導をいただきました。

昭和８年いはらき新聞（現茨城新聞）では「水戸の新名所『百樹園』牧野博士等を招き、昨日開園式」「社会事業として立派なもの。水戸の誇り。牧野博士語る」の記事が掲載されました。昭和15年３月16日には牧野博士を筆頭に大塚敬節、矢數道明など当時の漢方薬学の大家を招いた「漢方と薬草の大講演会」を水戸市仲町農工会館で開催し、翌日のいはらき新聞（現茨城新聞）「熱心な研究者あり。婦人聴講者も見え超満員」の取材記事が紹介されています。

日本各地で植物同好会を指導した牧野博士は、水戸でも百樹園をきっかけに植物を知るおもしろさ、大切さを多くの人たちに伝えてくださいました。

木村家所蔵の牧野富太郎直筆の書
「百樹園」
昭和三年初夏
＊「牧野結網」は牧野富太郎のこと

最初に植えられた植物

昭和八年六月作製
百樹園植物目録
水戸市外古徳
園主 木村信淳

園内にあった洋館には
暖房設備があった

昭和８年に作成された「百樹園植物目録」によると、長方形で中央通路の両側に１区画25坪で「いの一」から「との十」まで60区画に碁盤の目のように区分けされ、裸子植物３科61種、被子植物61科324種、856株が植えられました。

「スギ科」「モクレン科」「カエデ科」など科の配列は植物分類などの大家エングラー及びギルク両氏の自然分類書の順序にならい、樹名板には牧野博士や野原先生が検定された正確な学名、和名、科名が記されました。手当たり次第植物を集めて植えたのではなく、樹木に特化した学術的施設で「茨城県で最初にできた植物園」です。

鶴町猷（はかる）の記録には「裸子植物の如きは多数の外国種をも加えて見事な発育をなし、参観者を待っている。整然と区割りされた植物園の周囲には温室あり、花壇あり、築山あり、池あり、広大な美しい林もある。」と、以前は温室があったことが記されています。

文末は「～大規模の植物園であるから、健全な発達を強く望み多くの人が利用して学術研究の資料となれば園主も喜んで研究者たちの来園を歓迎することだろう」のように結んでいます。

百樹園記原文

百樹園記

水戸城の南酒門の里に丘あり稲荷山といふ杉林欝乎として霧を生じ雲に参す嘉永壬子寿山木村翁松杉三万本を植ゑしが風雪を凌ぎて今に至れり木村家の当主伝兵衛翁諱信惇は寿山の孫なり富みて驕らず愛物の情饒なり其の物を愛するは書画器具を襲蔵するの謂にあらず天地生々の道に悟入し無尽の物性に看看し育成を楽めるなり昭和三年七月十一日は恰も名君義公の誕生三百周年に当れり翁此の時を擇び夫の杉林の側に植林を企て斯道の専孜者野原氏茂六に設計を託し遠きを厭はず近きを舍かず名木嘉樹を移植し名つけて百樹園といふ義公曾て那珂江岸に一区を割し諸種の樹木を栽植し学と用とに供し給ひぬ世呼びて百色山といえり星移り物換り寥々残存す此の挙先公の美意を紹ぎ祖伝の林丘に趣を加へ且天地生育の妙旨に副へり翁今年六十五家業の経営を後嗣に委ね優游自適四時多くは此の園中に徜徉す古より高士林野を愛せり荘子林壌の清楽淵明樹蔭の高趣と翁その致を一にす嗣子憲吉養婿五郎を始め一家一族居常輯睦して家業に専念し翁をして後顧の憂なからしめ偏に寿の長からむことを祈念すとぞ寿木林下に憩ふもの三百歳の齢を保つと伝へしは異国の故譚なり真訛得て知るべからずされ香木芳樹林を成し気清く煙澄める間に逍遥自在の日を送る者寿おのづから永きを致さむさても仁者は寿しとぞいふなる翁既に物を愛して仁を得たり況んや香木芳樹を友とするをや齢いかで久しからざるべき今茲に一族相謀り碑を園内に樹てゝ翁の志を後世に伝へかねて怡安する所あらしむとすといふ子孫斯の心あり百樹園の樹木長に欝立すること猶稲荷山の今に欝葱たるが如くならむ将又木村家家運の隆昌以てトすべし喜んで此の記を作る所以なり

昭和八年四月　　仙湖菊池謙二郎撰文并書及題額

百樹園石碑

百樹園完成の開園式にて
右から菊池謙二郎、百樹翁木村傳兵衛

百樹園記　現代語訳

水戸城の南、酒門の里に小高い丘があって稲荷山とよばれている。杉の林がうっそうと茂り、霧を発生させて雲になるほどである。嘉永５（1852）年に寿山の雅号をもつ木村翁が、松や杉３万本を植えたが、それが風雪をしのいで現在に至っている。

現在の木村家の当主傳兵衛翁、いみなを信惇という人は寿山の孫にあたる人である。この人は裕福であるが、おごったところもなく、物を愛する心が豊かである。書画などを受け継いで大切にしているのはもちろん、自然を大切にして植物を見てその生育を楽しんでいる。

昭和３（1928）年７月１１日は、ちょうど名君徳川光圀公の生誕３００周年に当たった。翁は、その時を選んでその杉林の側に植林を計画し、植林の専門家である野原茂六氏（水戸高等学校教授）にその設計を依頼し、遠いところも厭わず近いところにも目を配り素晴らしい樹木を集めて移植し、百樹園と名付けた。

光圀公はかつて那珂川の河岸の一区に様々な樹木を移植し、学問と実益のために活用した。世間の人々はそこを百色山（ひゃくいろやま）とよんだ。しかし時が過ぎ世の中が変わりそこはみる影もなくなった。

翁のこの行いは、光圀公の立派な意志を受け継いで、先祖伝来の林にしみじみとした味わいを加えるとともに、万物を立派に育てるという素晴らしい考えにもそっている。翁は今年６５歳になり、家業の経営を後継に任せて、悠々自適の生活を送り、一日の多くをこの園の中をゆったりと歩き回って過ごしている。

昔から人格の優れた人は、森林や野原を愛した。中国の戦国時代の思想家 荘子が森林を楽しんだり、宗の詩人陶淵明が木陰を愛したりしたことと、翁の行いは一致している。

後継の憲吉や娘婿の五郎をはじめ一家一族が普段から仲むつまじく家業に専念しているので、翁にとって後を心配することもなく、もっぱら長寿を祈るだけである。長寿の林の下でゆっくり休む人は300歳まで生きるという言い伝えが異国の話にある。その話が本当か嘘かはわからないが香りが良い樹木が立ち並び、空気が清々しく澄んでいる中を、ゆったりと歩き回る日々を過ごしている人は長寿を願わなくても、徳が高く情け深ければ、自然に長寿になるという。翁はすでに物を大切にし高い徳を得ている。まして香りが良い素晴らしい樹木を共にしているのだから、長寿でないはずがない。

今ここに一族がお互いに相談して記念碑を園内に建てて、心を休め楽しもうとする所にしようとする子孫には、すでに翁の志を後世に伝えようとする心がある。将来、きっと百樹園の樹木が成長して群がり、今の稲荷山以上にうっそうと茂ることになるであろう。これが木村家家運がますます隆盛を極めるであろうことを願って、喜んでこの記録を書く理由である。

昭和八年四月

雅号仙湖　菊池謙二郎　　文章を作り、文と題を書く

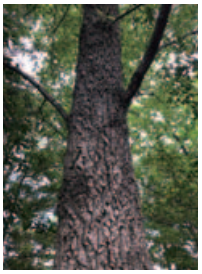
百樹園の大木になった樹木

開園から長い年月が経過し、残念ながら枯れてしまったもの、大きくなりすぎて管理上危険なため調整したものなどもありますが、新たに植えられた珍しい樹木や、おもしろい特徴がある植物があり、季節によって園内を楽しめます。

当時の植えた場所に令和の時代まで生き残り大木になった樹木にはアトラスシーダー、アベマキ、センダン、ハリギリ、ミズキ、ユリノキ、シンジュ、ケンポナシ、ダイオウマツ、リキダマツなどがあります。迫力ある樹木と個性ある木肌を観察してみましょう。

植物名（別名）	学名	科（属）	説明	場所
アトラスシーダー	*Cedrus atlantica*	マツ科 ヒマラヤスギ属	北アフリカのアトラス山脈が原産地。ヒマラヤスギの仲間。材は心地よい香りがする。	18
アベマキ	*Quercus variabillis*	ブナ科 コナラ属	日本全土に分布。 樹皮からコルクが取れる。 コルクの代用になる場合がある。	24
センダン	*Melia azedarach*	センダン科 センダン属	四国、九州、中国などに分布。 初夏に淡紫色の花が咲く薬木。 果実が駆虫薬で有名。	41
ハリギリ （センノキ）	*Kalopanax pictus*	ウコギ科 ハリギリ属	日本全土、朝鮮、中国などに分布。葉がヤツデに似て枝に鋭いトゲがあるので「針桐」と言う。	43−3
ミズキ	*Cornus controversa*	ミズキ科 ミズキ属	北海道から九州に分布。階段状の樹形が特徴。春に白い小花が開花。枝を切ると水が出るのでこの名がある。	43−3
ユリノキ （ハンテンボク）	*Liriodendron tulipifera*	モクレン科 ユリノキ属	原産地はアメリカ。 花の形がチューリップによく似ているのでチューリップツリーと呼ばれる。	2、13、19
シンジュ （ニワウルシ）	*Ailanthus altissima*	ニガキ科 ニワウルシ属	中国原産。実に翼がついて風で飛び分散される。ウルシに似るが、かぶれない。	41

アトラスシーダー


アベマキ

センダン

ハリギリ

ミズキ

ユリノキ

百樹園のおもしろい植物たち

タラヨウの葉の裏で書いたハガキ

タラヨウの果実

イスノキの葉にできた虫こぶ

タラヨウ *Ilex latifolia*（駐車場中央）
モチノキ科モチノキ属　本州の暖地に分布
葉の裏に傷をつけると字が書けるので「はがきの木」と呼ばれる。平安時代、この葉に文字を書いて相手に伝え、現在の「葉書」の語源になっている。初夏には果実ができ、11 月には赤く熟す。

イスノキ *Distylium racemosum*（28）
マンサク科イスノキ属　本州の暖地に分布
アブラムシ類が葉に虫こぶを作って穴があくと笛のようにヒョウヒョウと鳴るので「ヒョンノキ」と呼ばれる。

ダイフクチク *Bambusa ventricosa*（8）
イネ科ホウライチク属　中国～ベトナムに分布
節間が短く膨らみ仏様のお腹に見立て「大福竹」と呼ばれる。地下茎は持たず株立ちになる。

シロマツ *Pinus bungeana*（駐車場西側）
マツ科マツ属　中国原産
長寿の象徴とされ神聖な木。当園のものは清朝最後の皇帝ゆかりの貴重なものと言われる。樹皮がまだらに剥げ落ち、幹全体が緑がかった白色になる。

ケンポナシ *Hovenia dulcis*（36,42-2）
クロウメモドキ科ケンポナシ属　北海道～九州に分布
球形の果実は梨のような甘みがあり生食される。皮や枝を煮出したり葉を発酵させてケンポナシ茶とする。口臭を消す効果がある。

百樹園のご案内

〒310―0836　水戸市元吉田町2618―1
- 開園時間：9:00～16:30まで
- 休 園 日：年末年始12/29～1/3
- 入 園 料：無料
- 駐 車 場：６台程度
- お問い合わせ
  水戸市公園緑地課（029-224-1111）
- ホームページ／水戸市ホームページ

◆交通案内
JR水戸駅北口よりバス（関東鉄道３番）「けやき台団地・柏渕行き」「太刀洗バス停」下車（約20分）後、徒歩約10分